

中電 住民説得は困難 山口・上関 原発予定地

2021/6/29 18:14

産経WEST | できごと 地方 | 中国・四国 山口

反応

被害額は前年の4倍以上!あの投資って大丈夫? / 政府広報

広告



祝島の住民(左)の説得を試みる中国電力の作業員ら
= 29日午前、山口県上関町沖

中国電力は29日、上 関（かみのせき）原発 （山口県上関町）の建設

予定海域で7月に予定する地質調査を控え、漁船などで抗議する住民の元に船を出し、説得を試みた。この日はにらみ合いが続き撤収。同社は「粘り強く続ける」と30日以降も取り組むとした。

対岸の祝島(いわいしま)の住民らは29日午前8時ごろから、埋め立て予定地付近に漁船8隻とカヤック1隻を出した。中国電の作業員を乗せた船が各船に接近し、交渉を始めたが理解は得られず、午後3時ごろ撤収した。

られず、午後3時ごろ撤収した。

中国電は予定地の約200メートル沖で、断層の過去の活動時期を明らかにするボーリング調査を、県から許可を得た7月7日から着手したい意向だ。調査の期限は10月6日。準備作業に着手できない状況が続くが、中国電上関原発準備事務所の内富恭則広報部長は「今回も同様に交渉を続ける」とした。

